

## 南西諸島のサツマイモ在来品種の収集

田浦 悟・落合浩英

### Collection of Local Variety in Sweet Potato (*Ipomoea batatas*) from the Nansei Islands

TAURA Satoru and OCHIAI Hirohide

鹿児島大学自然科学教育研究支援センター

Natural Science Center for Research and Education, Kagoshima University

#### 要旨

南西諸島におけるサツマイモの伝播、それぞれの島嶼間のサツマイモの遺伝的な関連性を調べるために、南西諸島の島々のサツマイモ在来品種に着目した。各島々で古くから栽培が続けられているサツマイモを中心に収集した。約 60 品種を収集し、試験栽培を行い地上部、地下部の遺伝的特徴を調査した。DNA を用いた解析を行うため、葉から DNA を抽出した。収集したサツマイモ在来品種を紹介する。

#### はじめに

サツマイモ (*Ipomoea batatas*) は中央アメリカ原産の蔓性で塊根を形成する作物である。野生種が存在する。野生種には染色体の基本数が 15 の 2 倍体 ( $2n=30$ )、4 倍体 ( $4n=60$ ) および 6 倍体 ( $6n=90$ ) がある。栽培化されたサツマイモは遺伝的に同質の 6 倍体である。サツマイモの栽培種は 3 つのルートで世界へ伝播したと考えられている。1 つ目はハワイを通る北太平洋ルート (カモテルート)、2 つ目は南太平洋の諸島を通る南太平洋ルート (クマラルルート)、3 つ目はヨーロッパ、アフリカを経由するヨーロッパルート (バタタスルート) である。3 つのルートはフィリピン、中国等を経て、南西諸島を通じて、日本に繋がる。我々は南西諸島のサツマイモは 3 つのどのルートを経てきたものか、それぞれの島々のサツマイモは遺伝的にどのような関連性があるのか興味を持っている。そこで、西南諸島で古くから栽培されてきた品種を中心に集める事にした。収集したサツマイモは遺伝的な形質を調査するために試験栽培を行い、DNA による解析のための葉より DNA を抽出した。今回は収集したサツマイモ在来種をあらためて整理したので紹介する。

#### 収集したサツマイモ在来種

サツマイモの収集は 2005 年から 2008 年に落合によって行った。種子島を中心に、奄美大島、徳之島において実施した。表 1 に収集年月、収集場所を示した。収集を行っている期間に、アリモドキゾウムシの発生があった。鹿児島にサツマイモを持ち込む際は検疫所にて燻蒸処置を行い、証明を受けて導入した。収集したサツマイモは種子島の保存園 (落合所有) で試験栽培し、保存している。

